

当研究所では、県内の消費行動を探るため南都銀行 31 か店の来店客を対象に、「暮らし向きアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめました（毎年調査）。

今回の調査結果の特徴としては、前回（2016年10月調査）よりも暮らし向きDIが6.9ポイント上昇し、暮らし向き感は良くなりました。また、消費支出DIも4.9ポイント上昇しました。

今後1年間の予想では、暮らし向きDIは2.4ポイント悪化する見通しです。消費支出DIは72.1ポイント低下する見通しとなっており、今後の消費支出を「減らす」とした人はすべての年代で5割近くとなり、消費の先行きは引き締めが厳しくなることがうかがえる結果となりました。

## 《要 約》

### ①暮らし向き動向

1年前の前回（2016年）と比べた現在の暮らし向きDI（※）は△14.4で、前回よりも6.9ポイント上昇。一方、今後1年間の暮らし向きDIは、△16.8と現在より2.4ポイント低下しており、落ち込みは前回調査（7.2ポイント低下）よりも小さいものの、暮らし向き感は悪くなる傾向にあると考えている方が多いことがわかりました。

※DI（Diffusion Index）とは、アンケート結果の分散程度を指数化したもので、質問に対して「プラス（良い、増加等）」、「中立（変わらない）」、「マイナス（悪い、減少等）」の3つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した割合から「マイナス」と回答した割合を差し引きした指数をいう。

### ②消費支出動向と増減理由等（複数回答）

現在の消費支出DIは36.2となり、前年比4.9ポイント上昇。

消費支出の増加理由は「出費がかさなった」が最多で、次いで「物価が高くなった」となった。支出が増加した項目は、29歳以下が「住居（家賃、光熱費等）」、30代、60歳以上では「飲食品」、40代、50代は「教育」が最多となった。消費支出の減少理由は「節約した」が最多で、次いで「世帯の収入が減少した」の順。支出が減少した項目は「飲食品」が最多で、次いで「衣料品」の順となった。

今後1年間の消費支出DIは△35.9と72.1ポイント低下の見通し。消費支出を減らそうという理由は「年金や介護費用など老後の生活が不安」が最多となった。年代別では、29歳以下が「気がかりなことは特にない」、30代では「世帯の収入が減った」、40代、50代、60歳以上では「年金や介護費用など老後の生活が不安」が最多となった。

### ③貯蓄目的（複数回答）

今後1年間の貯蓄DIは24.7で、前年比2.7ポイント増となり3年連続の上昇となった。貯蓄目的は「老後の備え」が最多で、預け入れ商品では「定期預金・定額貯金」が最多。

### ④今後1年間に購入・支出予定の品目（複数回答）

1位「国内旅行」、2位「教育・自己啓発費」。前回と比べて、購入・支出予定が増加したのは「教育・自己啓発費」（前年比+6.5ポイント）、「婦人物衣料」（同+3.5ポイント）、「子供用衣料」（同+3.5ポイント）。一方、減少したのは「国内旅行」（同△5.2ポイント）をはじめ、「乗用車」、「スポーツ、レジャー用品」（同△1.6ポイント）などであった。

### ⑤サービス・レジャー等に関する支出（複数回答）

1年前と比べたサービス・レジャー等に関する支出DIが最も高いのは「外食費」で、最も低いのが「二泊以上の旅行（海外旅行含む）」。今後1年間に支出を増やそうと考えているのは「一泊旅行」が最多で、次いで「日帰り旅行」となった。

## 1. 暮らし向き動向

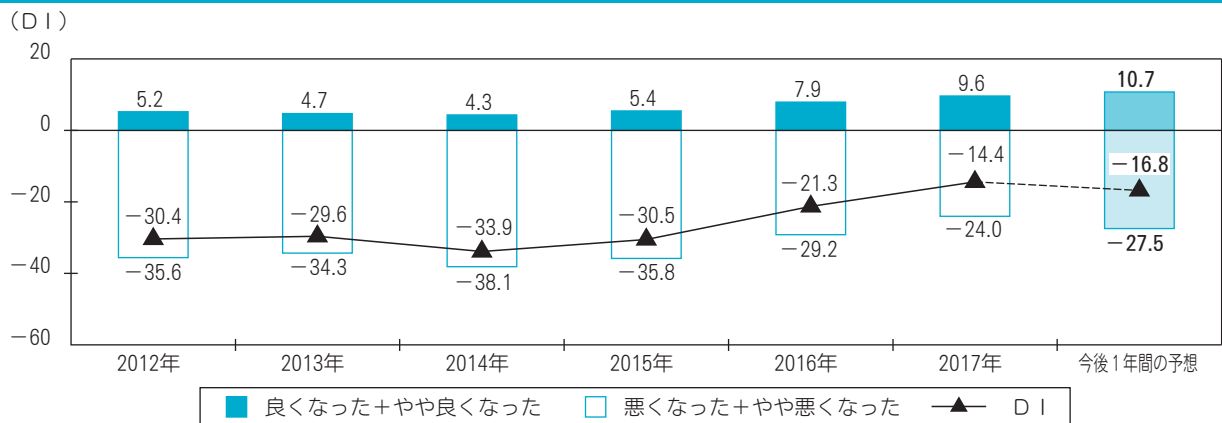
<現在（2017年）>

1年前（2016年）と比べた全体の暮らし向き動向をみると、暮らし向きDIは△14.4となり、2016年の前回調査（△21.3）よりも6.9ポイントの上昇となった。前回調査では2017年の暮らし向きDIを△28.5（16年比7.2ポイント低下）と予想していたため、予想に比べ、DIは上昇した

といえる。

年代別に見ると、すべての年代で、前回と比べて暮らし向きDIが上昇しており、29歳以下（前年比+15.2ポイント）、30代（同+12.1ポイント）、40代（同+0.1ポイント）、50代（同+12.1ポイント）、60歳以上（同+1.4ポイント）であった。

暮らし向きDI（1年前に比べ）（n=701）



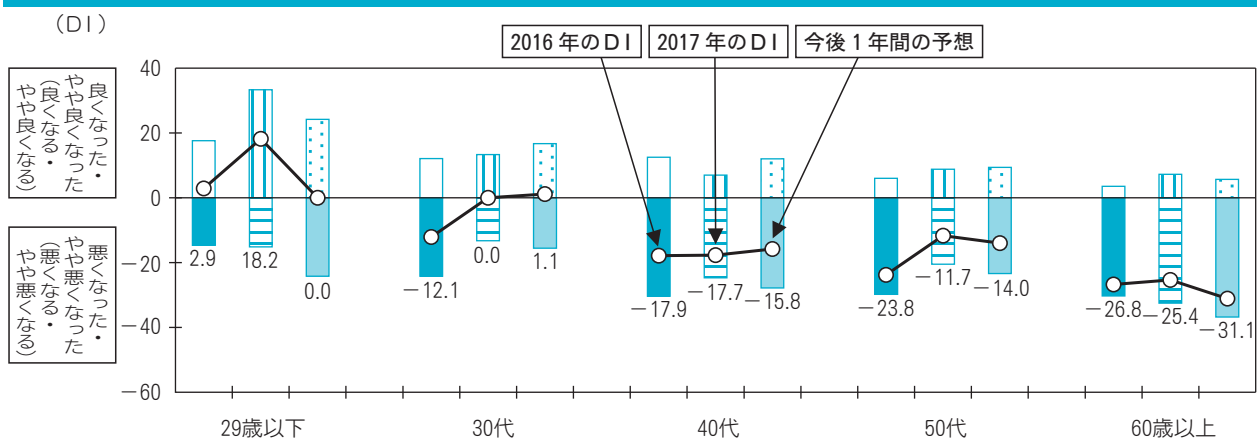
<今後1年間（2018年）>

今後1年間の暮らし向き予想については、全体の暮らし向きDIが△16.8と現在よりも2.4ポイント低下しており、前回調査の7.2ポイント低下よりも落込み幅は縮小しているが、暮らし向き感は悪くなると感じている人が、依然多くなっている。

年代別に見ると、30代（現在比+1.1ポイント）、40代（同+1.9ポイント）と暮らし向きは良くなると予想したが、その他の世代では低下する予想となっており、29歳以下（同△18.2ポイント）、50代（同△2.3ポイント）60歳以上（同△5.7ポイント）と、先行きに不安を感じている人が多いことがうかがえる。

年代別にみると、30代（現在比+1.1ポイント）、

年代別暮らし向きDI（n=701）



## 2. 消費支出動向

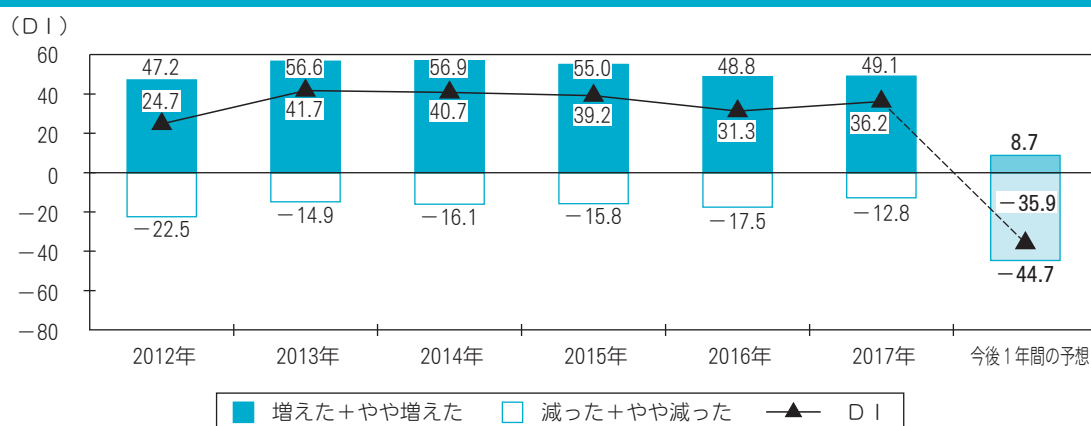
<現在（2017年）>

1年前（2016年）と比べて消費支出が「増えた」「やや増えた」と答えた人の割合は49.1%、「減った」「やや減った」は12.8%となり、全体の消費支出DIは36.2で、前回（31.3）より4.9ポイン

ト上昇した。

前回との変化を年代別に見ると、40代（前年比△6.1ポイント）が低下した。一方、29歳以下（前年比+1.3ポイント）、30代（同+17.2ポイント）、50代（同+4.3ポイント）、60歳以上（同+10.6ポイント）は上昇した。

消費支出DI（1年前に比べ）（n=701）



<今後1年間（2018年）>

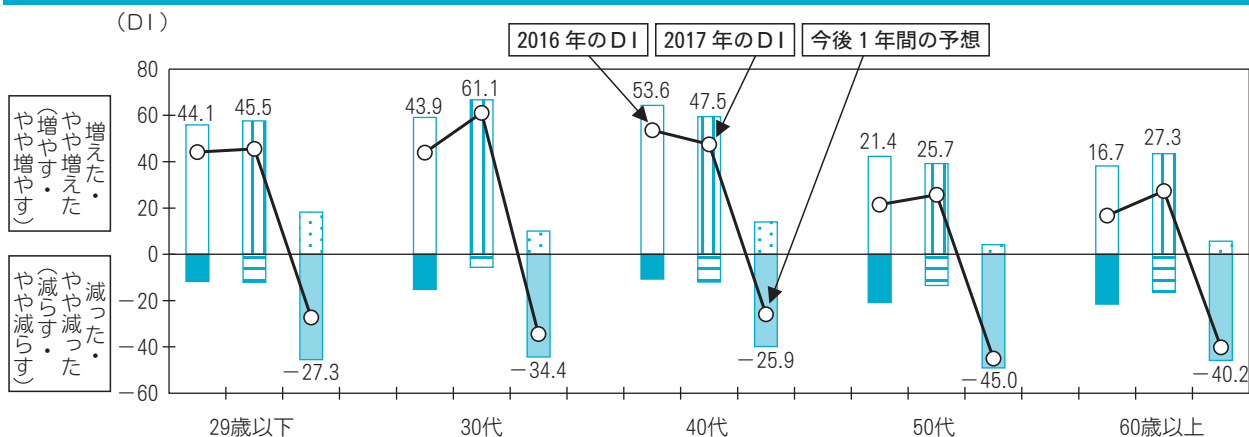
今後1年間の消費支出DIの予想は△35.9となり、現在よりも72.1ポイント大幅に低下する見通しとなった。今後の消費支出を、今よりも「減らす」「やや減らす」の割合は、44.7%に達した。

年代別では、50代の消費支出DIが最も低く△45.0であった。消費支出DIの低下幅は、大き

い順に30代（現在比△95.5ポイント）40代（同△73.4ポイント）、29歳以下（同△72.8ポイント）、50代（同△70.7ポイント）、60歳以上（同△67.5ポイント）。

今後の消費支出を「減らす」「やや減らす」とした人は5割近くとなり、消費の先行きは引き締めが厳しくなる模様である。

年代別消費支出DI（1年前に比べ）（n=701）



### 3. 消費支出の増減理由等

#### (1) 消費支出の増加理由および増加項目

1年前(2016年)と比べた消費支出が「増えた」「やや増えた」と答えた344人を対象に、その理由をたずねた結果、「出費がかさなった」が75.0%で最も多く、次いで「物価が高くなった」(21.8%)となった(図表不掲載)。

支出が増加した項目(複数回答)は「飲食料品」(42.4%)が最も多く、続いて「教育」(36.3%)、「住居(家賃・光熱費等)」(21.8%)の順となった。

年代別に最も支出が増加した項目を見てみると、30代、60歳以上では「飲食料品」が最も多い項目となり、29歳以下は「住居(家賃・光熱費等)」、40代、50代は「教育」が最も多くなった(図表不掲載)。

#### (2) 消費支出の減少理由および減少項目

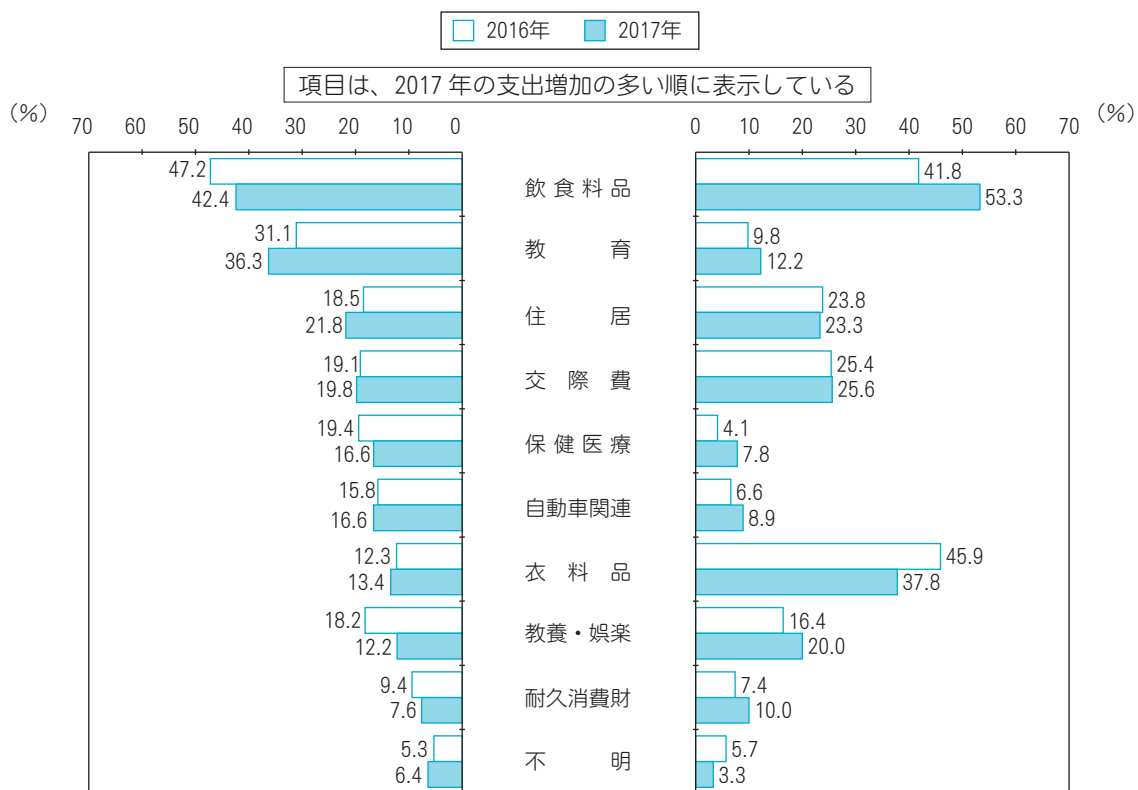
1年前(2016年)と比べた消費支出が「減った」「やや減った」と答えた90人を対象に、その理由をたずねた結果、「節約した」(42.2%)が最も多く、次いで「世帯の収入が減少した」(32.2%)となった(図表不掲載)。

支出が減少した項目(複数回答)は「飲食料品」(53.3%)が最も多く、続いて「衣料品」(37.8%)の順となった。年代別に最も支出が減少した項目を見てみると、29歳以下は「飲食料品」と「住居(家賃・光熱費等)」。

30代、40代、50代は「飲食料品」、60歳以上では「衣料品」となった(図表不掲載)。

支出が増加した項目(複数回答)(n=344)

支出が減少した項目(複数回答)(n=90)

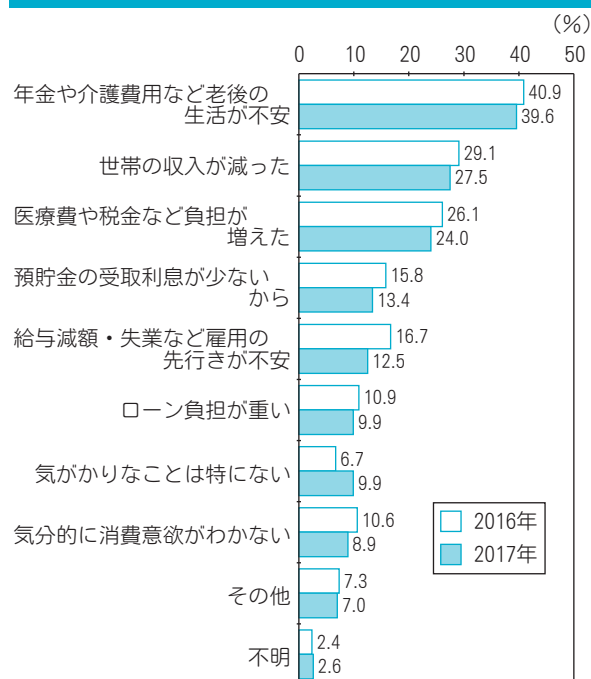


#### 4. 今後1年間に消費支出を減らそうと思う理由（複数回答）

今後1年間の消費支出について「減らす」「やや減らす」と答えた313人を対象に、その理由をたずねた。その結果最も多かったのが「年金や介護費用など老後の生活が不安」（39.6%）で、以下「世帯の収入が減った」（27.5%）、「医療費や税金など負担が増えた」（24.0%）、「預貯金の受取利息が少ないから」（13.4%）と続いた。

年齢別にみた最も多い項目は、29歳以下では「医療費や税金など負担が増えた」、「年金や介護費用など老後の生活が不安」と「気分的に消費意欲がわからない」、30代では「世帯の収入が減った」、40代、50代、60歳以上では、「年金や介護費用など老後の生活が不安」となっている。

消費支出を減らそうと思う理由（複数回答）（n=313）



年代別消費支出を減らそうと思う理由（複数回答）（n=313）

理由	29歳以下		30代		40代		50代		60歳以上	
	今回 (2017年)	前回 (2016年)	今回 (2017年)	前回 (2016年)	今回 (2017年)	前回 (2016年)	今回 (2017年)	前回 (2016年)	今回 (2017年)	前回 (2016年)
年金や介護費用など老後の生活が不安	13.3	17.6	17.5	11.5	30.2	18.8	36.9	55.8	62.5	51.3
世帯の収入が減った	0.0	0.0	22.5	30.8	25.4	26.6	21.4	31.6	39.6	29.6
医療費や税金など負担が増えた	13.3	0.0	10.0	15.4	27.0	20.3	19.0	21.1	35.4	39.1
預貯金の受取利息が少ないから	0.0	11.8	10.0	15.4	7.9	7.8	16.7	16.8	18.8	19.1
給与減額・失業など雇用の先行きが不安	0.0	23.5	10.0	11.5	15.9	18.8	21.4	21.1	6.3	12.2
ローン負担が重い	6.7	11.8	10.0	15.4	14.3	14.1	11.9	15.8	6.3	5.2
気分的に消費意欲がわからない	13.3	11.8	10.0	3.8	12.7	12.5	2.4	11.6	10.4	11.3
気がかかりなことは特にない	40.0	23.5	12.5	19.2	6.3	12.5	13.1	3.2	3.1	1.7
その他	13.3	5.9	15.0	19.2	4.8	7.8	8.3	6.3	3.1	5.2
不明	6.7	11.8	0.0	3.8	1.6	3.1	2.4	1.1	2.1	1.7

(注) 合計および各年代において、 1番多い理由、 2番目に多い理由、 3番目に多い理由。

## 5. 貯蓄目的（複数回答）

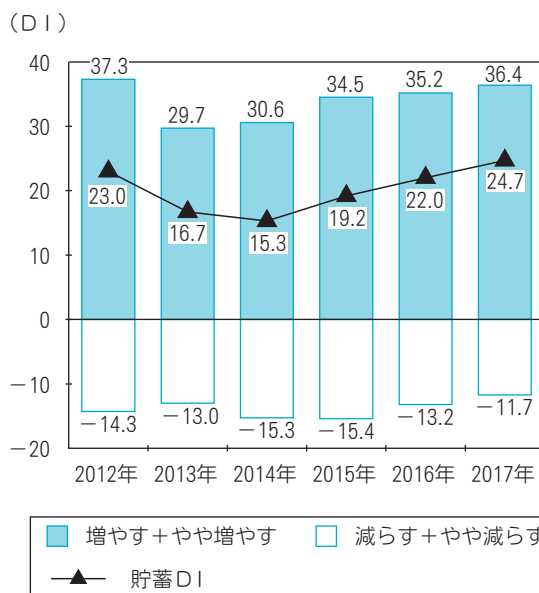
<全体>

今後1年間の貯蓄は「増やす」「やや増やす」（36.4%）が前回よりも1.2ポイント上昇、「減らす」「やや減らす」（11.7%）が1.5ポイント低下し、貯蓄DIは24.7で、前年比+2.7ポイントと上昇した。

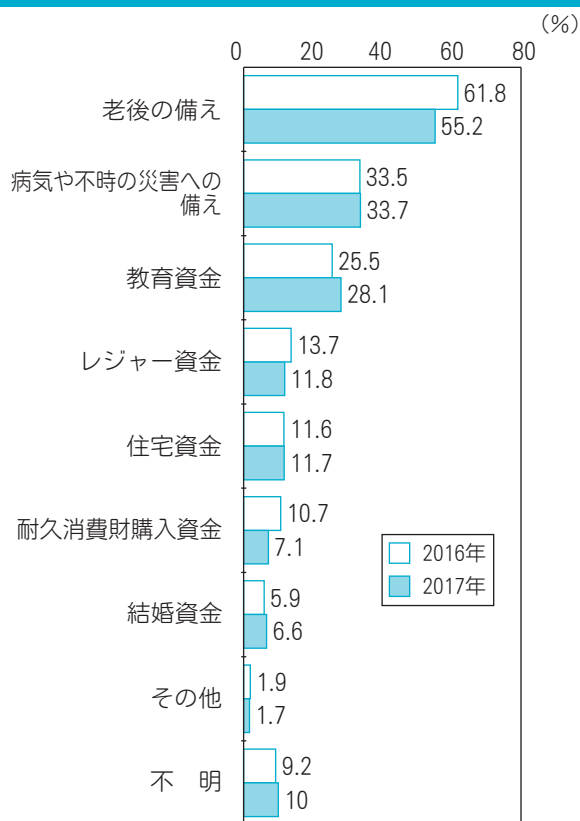
貯蓄の目的では、「老後の備え」（55.2%）が最も多く、前年比では6.6ポイント低下した。次に「病気や不時の災害への備え」（33.7%）が続き、順番はすべて前回と同じであった。年齢別にみると、29歳以下、30代、40代が「教育資金」、50代、60歳以上が「老後の備え」との回答が最も多かった（図表不掲載）。

今後、貯蓄をする場合に考えている商品の内訳については、前回同様、「定期預金・定額貯金」（53.4%）が最も多く、次いで「普通預金・通常貯金」（46.2%）、「投資信託」（13.4%）となった。

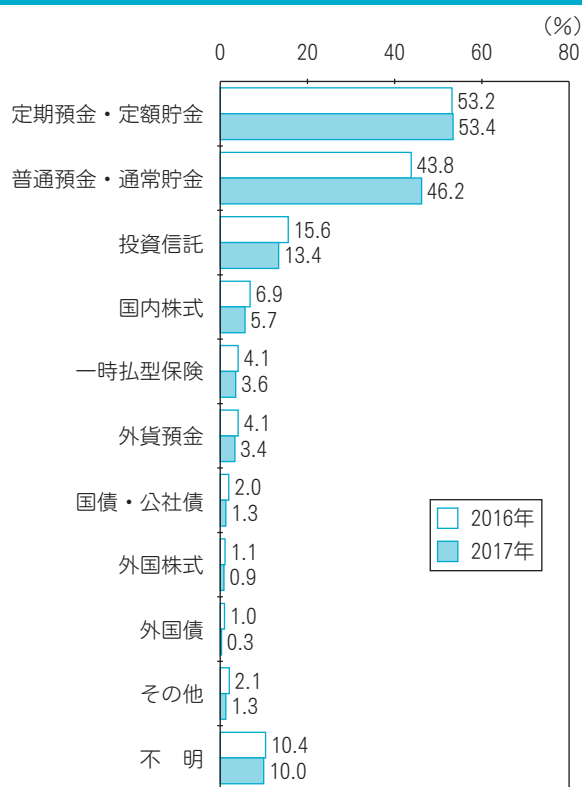
## 今後1年間の貯蓄DI（n=701）



## 貯蓄の目的（複数回答）（n=701）



## 今後貯蓄をする場合に考えている商品の内訳（複数回答）（n=701）

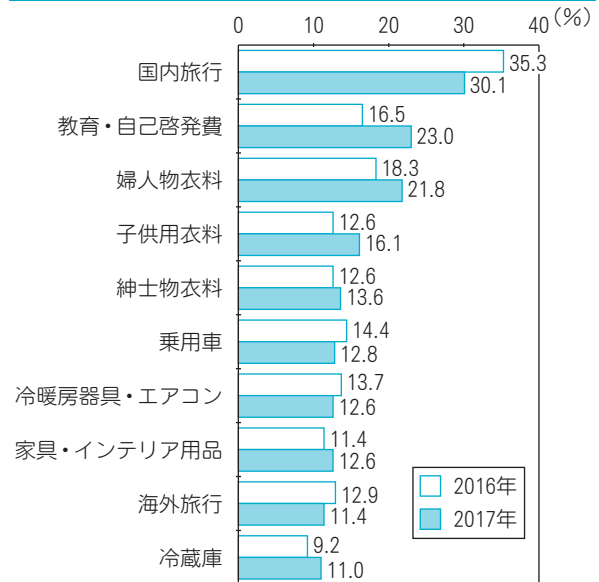


6. 今後1年間に購入・支出予定の品目（複数回答）

今後1年間に購入・支出予定の品目で最も多いのは「国内旅行」（30.1％）で、続いて「教育・自己啓発費」（23.0％）の順となった。前回よりも購入・支出予定が最も増えたのは「教育・自己啓発費」（前年比+6.5ポイント）、続いて「婦人物衣料」（同+3.5ポイント）と「子供用衣料」（同+3.5ポイント）。一方、前回よりも購入・支出予定が最も減少したのは「国内旅行」（同△5.2ポイント）、続いて「乗用車」と「スポーツ、レジャー用品」（同△1.6ポイント）となった。

年代別に、購入・支出予定の最も多い品目を見ると29歳以下は「紳士物衣料」「婦人物衣料」、30代は「子供用衣料」、40代は「教育・自己啓発費」、50代、60代以上は「国内旅行」であった。

今後1年間に購入・支出予定の品目（複数回答）（上位10品目）（n=701）



今後1年間に購入・支出予定の品目（複数回答）（n=701）

理由	合計		年代別										
	今回 (2017年)	前回 (2016年)	29歳以下		30代		40代		50代		60歳以上		
			今回 (2017年)	前回 (2016年)	今回 (2017年)	前回 (2016年)	今回 (2017年)	前回 (2016年)	今回 (2017年)	前回 (2016年)	今回 (2017年)	前回 (2016年)	
耐久消費財	冷暖房器具・エアコン	12.6	13.7	9.1	5.9	11.1	9.1	8.9	16.1	18.7	16.7	12.0	13.6
	薄型テレビ	7.6	6.2	3.0	0.0	5.6	3.0	7.0	8.3	7.6	9.5	9.6	4.4
	DVD・ブルーレイレコーダー	3.1	2.4	3.0	0.0	6.7	3.0	1.9	3.6	4.1	4.2	2.4	0.4
	パソコン・周辺機器	10.7	10.0	12.1	14.7	12.2	10.6	8.9	11.3	11.7	10.1	12.0	9.2
	デジタルカメラ・ビデオカメラ	2.3	3.0	3.0	11.8	3.3	7.6	4.4	1.8	1.8	0.6	1.0	3.1
	冷蔵庫	11.0	9.2	9.1	5.9	7.8	4.5	10.8	8.3	16.4	13.1	10.5	9.2
	洗濯機	10.3	10.2	12.1	5.9	11.1	7.6	10.1	10.1	12.3	14.3	9.1	9.6
	太陽光発電・蓄電池	0.6	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.8	0.0	0.0	1.4	1.3
	乗用車	12.8	14.4	9.1	11.8	10.0	18.2	16.5	19.0	14.0	19.0	9.6	8.3
衣料品・サービス	靴・ハンドバック	9.6	10.4	15.2	20.6	15.6	13.6	11.4	11.3	8.8	11.3	5.3	8.3
	紳士物衣料	13.6	12.6	18.2	8.8	15.6	16.7	19.0	13.1	12.3	16.7	10.5	9.6
	婦人物衣料	21.8	18.3	18.2	20.6	31.1	21.2	23.4	16.7	23.4	18.5	14.4	18.4
	子供用衣料	16.1	12.6	15.2	8.8	38.9	48.5	32.3	20.2	8.2	6.0	3.3	3.1
	スポーツ、レジャー用品	7.8	9.4	6.1	17.6	10.0	19.7	12.7	9.5	7.6	8.9	3.8	6.6
	家具・インテリア用品	12.6	11.4	15.2	17.6	15.6	24.2	15.2	11.9	12.9	13.7	8.1	5.7
	国内旅行	30.1	35.3	15.2	44.1	35.6	33.3	27.8	31.5	31.0	35.1	34.0	40.8
	海外旅行	11.4	12.9	9.1	26.5	7.8	10.6	6.3	9.5	11.1	13.1	17.2	14.5
教育・自己啓発費	23.0	16.5	9.1	11.8	34.4	30.3	45.6	31.0	25.7	12.5	5.3	5.7	

(注) 合計および各年代において、     1番多い理由、     2番目に多い理由、     3番目に多い理由。



## 7. サービス・レジャー等に関する支出

<現在（2017年）>

1年前（2016年）と比べたサービス・レジャー等に関する支出DI（以下サービス等支出DIという）について、最も高いのは「外食費」（+1.1）、最も低いのは「二泊以上の旅行（海外旅行含む）」（△24.8）、続いて「一泊旅行」（△19.0）となった。

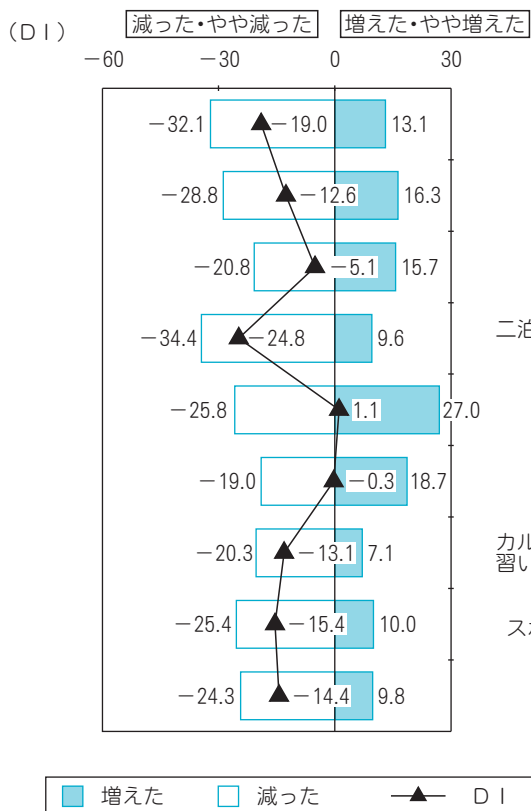
サービス等支出DIの前回と比べた上昇幅が最も大きかったのは「その他娯楽（遊園地、エステティック、宝くじ、ゲーム等）」（前年比+6.6ポイント）、次いで「日帰り旅行」と「スポーツ関連利用費」（同+5.3ポイント）であった（図表不掲載）。

<今後1年間（2018年）>

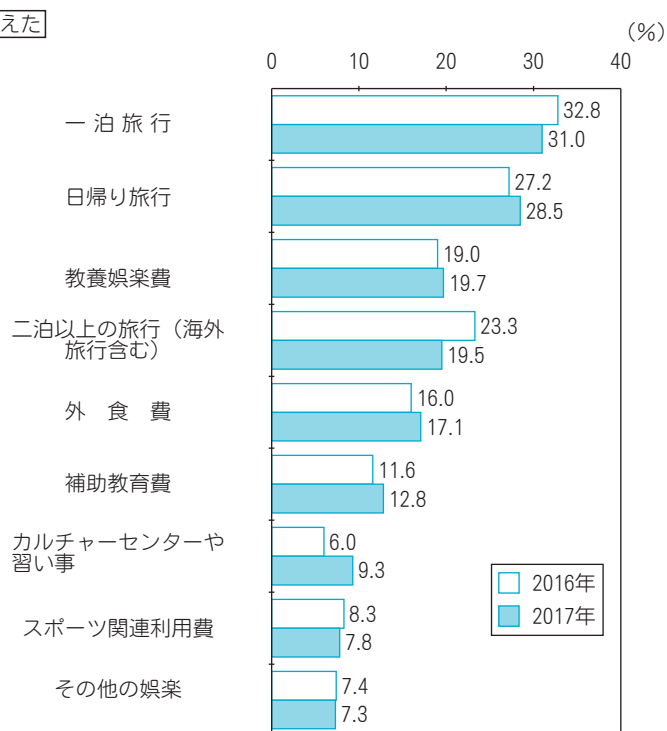
今後1年間に、サービス・レジャー等の支出で増やそうと考えているもの（複数回答）は、「一泊旅行」（31.0%）が最も多く、「日帰り旅行」（28.5%）と「教養娯楽費（コンサート、映画、博物館、スポーツ観戦等）」（19.7%）が続いた。

年代別に今後増やそうと考えている項目のなかで最も多いのは、29歳以下、30代、60歳以上は「一泊旅行」（各45.5%、33.3%、37.3%）、40代は「補助教育費（学習塾、予備校、家庭教師等）」32.3%、50代は、「日帰り旅行」（28.1%）であった（図表不掲載）。

1年前と比べた支出（n=701）



今後1年間に支出を増やそうと考えているもの（複数回答）（n=701）



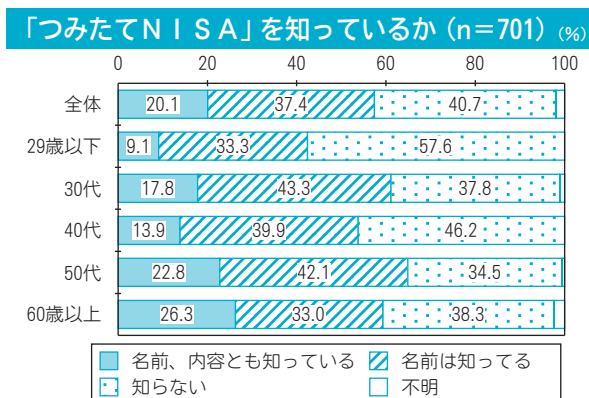


## 8. 『つみたてNISA』について

### (1) つみたてNISAを知っているか

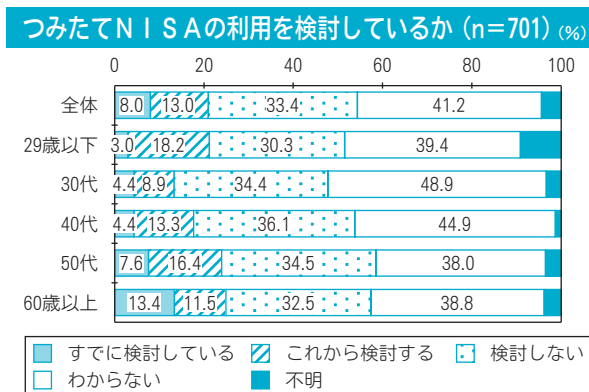
つみたてNISAとは、20年間の長期にわたり年間積立額40万円を上限として非課税の恩恵を受けられる制度で、2018年1月から利用開始となる。それに関して以下の通りたずねた。

まず、つみたてNISAについて知っているかたずねたところ、「名前、内容とも知っている」が20.1%、「名前は知っている」が37.4%、「知らない」が40.7%、「不明」が1.9%となった。どの年代を見ても、内容の理解度や認知度が高いとは言い難い。



### (2) つみたてNISAの利用を検討しているか

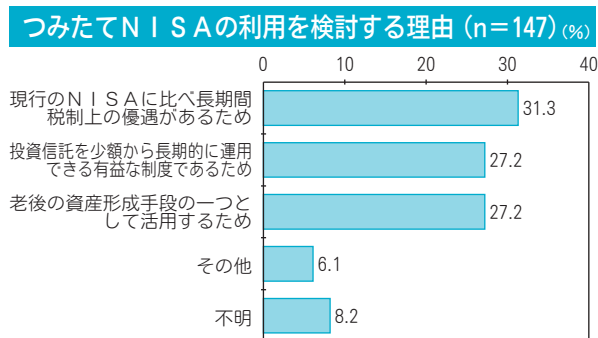
次に、「つみたてNISAの利用を検討しているか」を尋ねたところ、「すでに検討している」が8.0%、「これから検討する」が13.0%、「検討しない」が33.4%、「わからない」が41.2%、「不明」が4.4%だった。「すでに検討している」「これから検討する」をあわせた「検討している」人は、年代別では60歳以上が24.9%と最も多く、次いで50代が24.0%となった。一方、最も少なかったのは、30代で13.3%であった。



「不明」が4.4%だった。「すでに検討している」「これから検討する」をあわせた「検討している」人は、年代別では60歳以上が24.9%と最も多く、次いで50代が24.0%となった。一方、最も少なかったのは、30代で13.3%であった。

### (3) つみたてNISAの利用を検討する理由

前問で「つみたてNISAの利用をすでに検討している」「これから検討する」と回答した147人に、その理由を尋ねたところ、「現行のNISAに比べ長期間税制上の優遇があるため」が31.3%、「投資信託を少額から長期的に運用できる有益な制度であるため」、「老後の資産形成手段の一つとして活用するため」がともに27.2%、「その他」が6.1%、「不明」が8.2%となった。



### (4) つみたてNISAの年間積立額の目安について

「つみたてNISAの利用をすでに検討している」「これから検討する」と回答した147人に、年間積立額（年間40万円まで積立投資可能）の目安はいくらかを尋ねたところ、「10万円～20万円未満」が24.5%と最も多く、「わからない」が21.8%、「30万円～40万円」が17.0%、「20万円～30万円未満」が14.3%、「10万円未満」が12.9%、「不明」が9.5%となった（図表不掲載）。

(中井正人)

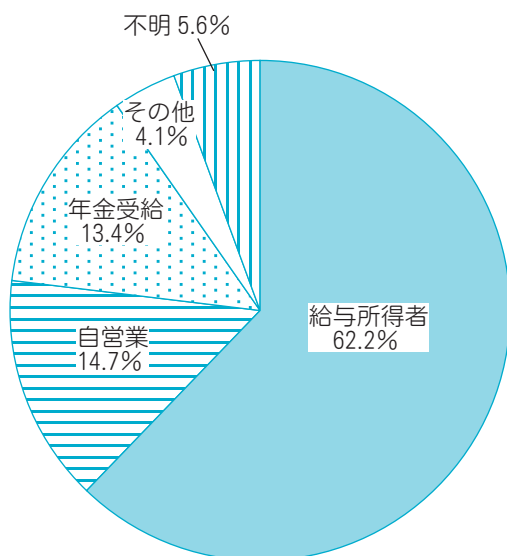
## 【調査要領】

- (1) 調査場所…… 次に掲げる奈良県内の南都銀行店舗 31 か店  
 本店営業部、紀寺、西大寺、西ノ京、平城、学園前、富雄、生駒、東生駒、郡山、筒井、  
 天理、天理南、桜井、榛原、大淀、高田、高田本町、馬見、香芝、真美ヶ丘、新庄、御所、  
 橿原、神宮前、王寺、西大和、平群、法隆寺、田原本、五条
- (2) 調査日…… 2017年10月初旬
- (3) 調査方法…… 上記店頭において無記名で記入
- (4) 調査対象者数 701人  
 うち有効回答者数 701人  
 有効回答率 100%
- (5) 調査対象者（世帯主）の属性

（上段：人、下段：％）

職業	29歳以下	30代	40代	50代	60歳以上	年齢不明	全体
給与所得者	29 6.7	71 16.3	131 30.0	129 29.6	69 15.8	7 1.6	436 100.0
自営業	2 1.9	12 11.7	18 17.5	28 27.2	40 38.8	3 2.9	103 100.0
年金受給	0 0.0	1 1.1	0 0.0	0 0.0	87 92.6	6 6.4	94 100.0
その他	1 3.4	4 13.8	6 20.7	11 37.9	4 13.8	3 10.3	29 100.0
不明	1 2.6	2 5.1	3 7.7	3 7.7	9 23.1	21 53.8	39 100.0
合計	33 4.7	90 12.8	158 22.5	171 24.4	209 29.8	40 5.7	701 100.0

世帯主の職業



世帯主の配偶者の状況

